

白石の財産・豊かな「水」と「自然」を守るために

環境について考えよう

かつては、梅雨の晴れ間の蒸し暑い夜などに、ホタルが群れをなして飛び交う姿が市内各地で見られました。が、いつのころからか、そんな初夏の風物詩も少なくなっていました。

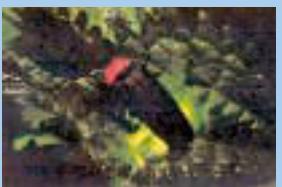
しかし、最近になってホタルが少しずつ姿を見せるようになり、福岡蔵本の尾篭地区では、地域ぐるみでホタルを保護しようと、今年5月、「薬師堂ホタルの里を守る会」を結成しました。

今月号では、この尾篭地区の皆さんの活動を紹介し、市民の皆さんが住んでいる環境について、そして、白石の豊かさを象徴する「水」について考えていただききたいと思っています。

●ホタルの種類について

日本には46種類のホタルがいますが、水辺に住むホタルはゲンジボタルとヘイケボタルのみ。薬師堂周辺では、主にゲンジボタルが生息しています。

▶ゲンジボタル



●ホタルの生態

ゲンジボタルの幼虫は、きれいな水の中でカワニナを、ヘイケボタルの幼虫はタニシなどの巻貝を食べて成長します。



▲ホタルが食べるカワニナ・タニシ

やがて川岸で「さなぎ」になり、羽化して成虫になります。

成虫の生存期間は約2、3週間。成虫は草の葉などの水分を吸って生きています。

●ホタルはなぜ光るの？

光によるコミュニケーション（求愛行動）のために光ります。

●ホタルの生育条件

ホタルには、①きれいな水②えさ③水辺の土が大切で、一つでも欠けると生息しなくなります。

▲幻想的なホタルの光（6月末、尾篭地区の「おがる石」近くで撮影）